

オクターブガールズ ～チップチューン...

【八千代】

『十二音階少女～チップチューン・箱守八千代 “ 8bit of love ”』 v100_190831_v110_190920

進行豹

■登場キャラクター

箱守八千代（ゲーマー）

以下、ボイス全て八千代

数字と場所あるコメントはマイク位置指定

（呼吸音）は、呼吸音。吸って、吐いての息を何度か繰り返してください。繰り返し長さは、演者さんにとってこちよいタイミング・間にてご決定いただけましたら幸いです。

セリフ内。＜＞でくくったものはSE指定です。

編集でいれるので、演者さんは少し間を開けて下さい

（接近ささやき）は、密着距離までマイクに接近しながら、接近してのささやきでお願いします

（吹きかけ）は、密着距離でマイクに息を吹きかけるのでお願いします。距離が近いほど低音が入ってぞくぞく感があがるらしいので、なるだけ密着でお願いします。

前→3/右 のような指定の場合は、移動しながらお演じください

////////

Track1 歌手デビューへのオーディション

////////

この台詞だけモノログ扱い

1/前

yachi_0

「……………いる、かな。いると
したら、音ゲーなんだと思
うんだけど…………」

SE 自働ドア開閉

環境音 ゲームセンターF.I.

SE 足音

14/後左遠→:6/後左→:5/後

:5/後

【八千代】

yachi_1
「ん……。あ、いた。ふふつ、
やっぱり！　、カホンの達人
”——って！　あっ！？」

1/前（こじ、二役でお願いします。ゲームボイスつぽく）

【筐体】「ゲームオーバーだカホン！」

:5/後↓:6/後左

【八千代】

yachi_2
「……残念。惜しかったね。っ
ていうか、もしかして気、ち
らしちゃった？　わたし」

【八千代】

yachi_3
「あ！？　気づいてなかった？
急にごめん、声かけて。え
と——わたしのことわかる……
…よね？」

【八千代】

yachi_4
「対戦ときどきお向かいしてる
し、大会でもあたったことあるし、反省会とかでもちよい
ちよい顔はあわせて——」

【八千代】

yachi_5
「（呼吸音）——あ、よかった！けど、そか。ちゃんと自己紹介したことなかったね」

【八千代】

yachi_6

「じゃ、あらためて。わたしは八千代（やちよ）。箱守（はこもり）八千代。高校1年。キミより、多分……年下な感じ？　だよね？？」

【八千代】

yachi_7

「あ……（呼吸音）そーなんだ。ふーん。いわれればそのくらいの年に見えるかなー。わかんないけど。って、年のこととかはいまはよくって！　ええと、その――」

：7/左　耳打ち

【八千代】

yachi_8

「あの、ね？　少しだけ、話とかいい？」

：1/前

【八千代】

yachi_9

「あー、っと、大したことじゃないんだけど。あ、いや、違う？　多分……結構大したこと？その判断も、自分じゃない？　まいちわかんなくって」

【八千代】

yachi_10

「まあ、うん。相談ごと。相談ごとっていうか……もしもお願いできそーなら、頼み事したい感じっていうか」

【八千代】

yachi_11

「あ！　ってか、ここだと邪魔になるし、ドリンクコーナー行こ？今月おこづかいまだ余裕あるし——好きなの一杯、おごるから」

:SE 二人足音

:SE ベンダーに500円玉投入

:6/左前　（マイクに背中向き）

yachi_12

「何がいい？　なんでもいいよ。好きなの頼んで——あはっ、うん」

:SE ボタン押し、缶「るり

yachi_13

「わたしは——ジュース。100%のオレンジ、っと」

:SE ボタン押し、缶「るり

:SE 返却レバー→おこり、250円（硬貨3枚）→回収
:1/前

yachi_14

「はい、どうぞ」

【八千代】

【八千代】

【八千代】

【八千代】

：SE プルタブ開け

yachi_15

「ん……（「くっ、くっ、くっ、くっ）」

【八千代】

yachi_16

「ふう……って、落ち着いてる場合じゃないか。えとね？ さっきの、その——相談」とっていうか、頼み事っていうかなんだけど——」

：SE 紙ペラ

【八千代】

yachi_17

「これ。このビラ置いてあったの。CD屋さんに。なんかね？ 音楽のオーディションの。見て？」

【八千代】

yachi_18

「（呼吸音）……え？ そんな有名な人なの？AK——Arai Ke ことっていう人——作曲家？ふんふん、ふーん……そっか、音楽の世界では有名なんだ——」

【八千代】

yachi_19

「うん。わたしは知らなかった。別に音楽の世界の人じゃないし。CD屋さんも、カメラのドラマCD買いにいっただけだし」

【八千代】

yachi_20

「ただ……ね？ このチラシ、偶然見つけて……見つけちゃって、それで——その、はずかしいから、もっかいだけ、ちょっと耳貸してくれる？」

∴3/右 ひそひそ話

【八千代】

yachi_21

「スパゼロの大会の——ここ以前あったやつ。地区予選。あのあと、常連勢で反省会したじゃない」

【八千代】

yachi_22

「カラオケ、わたしもマイクも
たされて……そしたらキミ、
ほめてくれたじゃんか。歌い
終わったらわざわざ来て、隣
わりこんできて。『すごい
な。いい歌声でちよっとびっ
くりした』って」

1/前

【八千代】

yachi_23

「『ナンパっ！？』って思った
けど、キミ、すぐまた元の席
戻って——だからわたし、お
世辞かもだけど、本気で褒め
てくれたのかなあって——あ
……（呼吸音）——わあ！」

【八千代】

yachi_24

「えへへっ！ 覚えててくれた
んだ。しかも『お世辞じゃな
い』って——うれしい！ よ
かったあ、これで相談、ぐっ
としやすくなっちゃった」

【八千代】

yachi_25

「——うん。そうなの。このオーディション、~~オ~~オーディションのことが、相談ごとなの」

:SE 紙へラ

【八千代】

yachi_26

「ビラ、ここ見て？ 書いてあるでしょ？『ボーカリスト大募集。年齢性別国籍経験一切不問。オーディション合格者には~~オ~~プロデュースでの、歌手としてのCDデビューを確約』って」

【八千代】

yachi_27

「受かるだなんて思っていないけど——でも、ワンチャンあるなら、チャレンジしてみたいかなあって……ちよつとだけ、それみてわたし、思っちゃって」

【八千代】

yachi_28

「だって、わたしゲーム大好き
だけど、「全国一位、ゼンイチ」
だとかプロゲーマーだとかな
れるほどの腕前じゃないし。」「
-sportsの業界団体？ とかも
いい話全然聞かないし」

【八千代】

yachi_29

「それに——もしプロゲーマー
になれる可能性あったとして
も、仕事でゲームやりたいか
……っていったら、ちよつと
わかんないんだよね、正直」

【八千代】

yachi_30

「けど、歌うのは——ゲームと
は違う感じで好きなんだ。
ちっちゃいときから、ずつ
と、ずうつと」

【八千代】

yachi_31

「ゲームはさ、勝って嬉しい負
けてムカーって、もっと上達
したいなあっていう楽しさだ
けど……」

【八千代】

yachi_32
「うたは、えへへっ、たらららーんって、でたらめに歌ってるだけでも楽しいし。だから多分、一生誰に聞かれなくったって、歌ってるって思うんだ」

【八千代】

yachi_33
「だから、さ。もしも歌うのをお仕事にできたら——好きなことでお金もらえるようになら、最高かなって。仕事之歌で趣味がゲームで一生生きていけるなら……もうさ、人生「確定勝利」かちかく」だよ
ねーって思っちゃって」

【八千代】

yachi_34
「そしたらね？ キミの顔が急に、ぽんって頭に浮かんできて——って！？ あ
うっ！？へ、へ、へんな意味じなくて！ ここ！チラシの！ ここ！ 見て！！」

【八千代】

yachi_35

「『応募方法…ジャンルの明確なオリジナル曲での歌唱データを下記に送付すること』」

【八千代】

yachi_36

「この、『オリジナル曲』っていうのがネックで……わたし、いままでバンドとか歌ってみたとかそういうのやったことないから、そんなのもってるわけないし」

【八千代】

yachi_37

「それに……その前にある？『ジャンルが明確』っていうのの意味もイマイチわかんなくて——ほえ？」

【八千代】

yachi_38

「（呼吸音）——うん——うん。ふーんそーなんだ、ロックとかジャズとかソウル？とか、その曲がどんな特徴を持ってるのかを示すのが、『ジャンル』——ふーん」

【八千代】

yachi_39

「えへへ、やっぱり詳しいね！
作曲してる人だけのことは
あるねえ、キミ！」

【八千代】

yachi_40

「え！？ 知ってるよ。って
か、聞かせてくれたじゃん。
イヤホン貸してくれてさ、
こっそり。あのカラオケのと
き……って、キミ、もしかし
てお酒飲んだりした？それ
で忘れちゃったの？」

【八千代】

yachi_41

「なんかすっごくシンプルでピ
コピコして——キラキラかわ
いいやつ！わたし、あれすっ
ごく気に入っちゃって、覚え
てたんだよ？」

【八千代】

yachi_42

「だから、このチラシみたとき
すぐにキミの顔が頭に浮かん
で……相談したいなあ、して
みようかなーって思ったの。
なのに……」

……いたずらっぽくすねて、ふふふ動き回る感じで

【八千代】

yachi_43

「そっかー、キミは忘れちゃつてたんだー『歌、すごかったから。なんか聴いてほしくなっちゃって』とかいってたのになー——あ!？」

：3/右で足を止めて、マイクから顔そむけて独り言

yachi_44

「けど、それってむしろすごくない？自分の曲聞かせてくれたこと忘れてて——なのに、わたしの歌を聞いたことは、褒めてくれたことは覚えてるとか——って、ひゃっ!?!？」

：1/前

yachi_45

「あ、ううん。なんでもない。なんでもないよー。っていうか！ それより!!!! 相談の続きなんだけど」

【八千代】

yachi_46

「だからね？ わたし、キミの
曲、キミのオリジナル曲を歌
わせてもらって——
イシヨン、できたら、応募し
てみたいんだけど」

：前 詰め寄って目を見ながら

yachi_47

「——どうかな？ ダメかな？
……お願いできる？？？」

：環境音 F.O.

：////////

：Track2 で——てい——えむにえふえむおんげん？？？

：////////

：前 （モノローグ扱い）

yachi_48

「……どうしよう。いきなりお
部屋に呼ばれちゃうなんて。
わたし、男の子の部屋に入る
のも初めてなのに——」

yachi_49

「『こみいった話になりそうだ
から』って言われたけど……
あう……こみいったって——
ええと、その……」

【八千代】

yachi_50

「……どうしよう。いや、そういう話とは限らないけど、でも、もしそうになったら「ころの準備全然——」

:SE ドアガチャ

:9/前遠 (「ドア」し解除)

【八千代】

yachi_51

「ひゃうつ……!!?」

:1/前

【八千代】

yachi_52

「あ、あ——なんでもない。

ちよっと、あの、考え事してびっくりしたっていうか——
っていうか、お部屋掃除おわったの??」

【八千代】

yachi_53

「あ……うん。わかった。それじゃ、ええと——お邪魔します。ね?」

:SE ユア閉まる

:1/前

【八千代】

yachi_54

「わ——」

:SE 小走り足音

:3/右

【八千代】

yachi_55

「わ！ わ！ すごいすごいす
ごい！！なんか、テレビに
でてくる部屋みたい！！ミ
ュージシヤンの部屋！！」

…環境音 / 自宅スタジオ

…あちこちきょうきょう

【八千代】

yachi_56

「キーボードに、スピーカー
に、パソコンにあ！ ギター
もある！ ひけるの？ すご
い」

【八千代】

yachi_57

「このツマミがたくさんついて
る機械ってなに？ ミキサー？
わあ、なんだかプロっぽー
い！」

【八千代】

yachi_58

「あ……（呼吸音）——ふう
ん、そうなんだ。でいー
ていーえむ？ をやるならこ
のくらいは普通っていうか最
低限……なんだ」

【八千代】

yachi_59

「すごい、音楽ってお金かかるんだね。きっと——それでええと……わたし、ものしらなくて恥ずかしいんだけど、えと」

【八千代】

yachi_60

「でいーていーえむって、なに？ それ？」

【八千代】

yachi_61

「うん。うん……（呼吸音）——ふうん……『デスクトップミュージック？』 うん……パソコンをつかって音楽制作をすることが、DTM」

【八千代】

yachi_62

「あ！ わかったかも……！！わたしをこの部屋——キミの部屋につれてきたのってそれじゃ、そのDTMで、ひよっとして、『ジャンルが明確なオリジナル曲』？ を、作ってくれるためだとか——」

【八千代】

yachi_63

「そうじゃない、の？ ……
なあんだ、残念、じゃなく
て？ え？？？ そのまえに
——なに？ わ！」

：SE 足音数歩　：3／右→：1／前↓：6／左前

【八千代】

yachi_64

「これ、見たことある！！！！大
昔のプゲステみたいなのだよ
ね？ たしか……確か——なん
だっけ？」

：7／左（二人横並び。そっちにゲーム画面あるつもりで正面をみて、ときどきマイクII少年の方向にいただけますと幸いです）

yachi_65

「あ！ そうそう！ ハミコ
ン！！！！すっごーい！ 本物
初めてみた！ こういうのっ
て、レトロゲーム屋さんとか
にしかもう置いてないのかと
思ってた」

【八千代】

yachi_66

「この黒い、16bitって書いてあるのは？オメガドライブ？んゝゝ？なんか、名前くらいは聞いたことあるかもだけど――わたしは、あんまり知らないかも」

【八千代】

yachi_67

「あ！ そのとなりのは知っている！ スーハミ！スーパーハミコン！！なんか、すつごーくちっちゃいとき、親戚のおばちゃんとかでゲームしたことがある！マルオカー
ト！！！」

【八千代】

yachi_68

「古臭ーって思ったけど。でも、すつごくもりあがって面白かったから覚えてるの！……っていうか」

【八千代】

yachi_69

「これ、なの？ この古いゲーム機達が、わたしを、キミの部屋に呼んでくれた理由、なの??」

【八千代】

yachi_70

「……（呼吸音）——ん。わかった。ちよつとずつだけでもいいから、それぞれのゲームを遊んでみればいいのね？」

…スカイキッドイメージ

：https://www.youtube.com/watch?v=fZUpTZasMQc

yachi_71

「えと、じゃ、ハミコンから……『スカイドッグ』へえ、見たことないやー」

yachi_72

「あ、ここがスイッチ？ ント——わ！ すごい、画面シンブル！！！」

yachi_73

「プッシュスタート。あ、これがスタートボタンね？ えい！ わ、えと——あ、この飛行機に乗ってるのがわたし？」

【八千代】

yachi_74

「このボタン——あ、宙返りした——って、ひゃ!?!
わ!?!?!? あう、もう死んじやったゝゝゝ!?!」

【八千代】

yachi_75

「くっそ——って、え? も
ういいの。あう……あ、えへへ。うん。またあとで遊んでいいなら、次行く。うん」

【八千代】

yachi_76

「次は……なんだっけ? あ、オメガドライブ。これも電源いれてゝスタート!?!」

:<https://www.youtube.com/watch?v=KoAYTNA100I>

【八千代】

yachi_77

「あ! これ知ってる! ぶよぶよ!?!?!へえええ、昔のはこんなだったんだ!」

【八千代】

yachi_78

「ふっふっふー、ぶよぶよはちよつとはやったことある——あれ? 今のと感覚ちがくない? って、あれ? えっ——」

【八千代】

yachi_79

「うっわ……もうゲームオーバー。われながら……あはは——わたしほんと、対戦格闘以外センスないなあ」

【八千代】

yachi_80

「あ……うん。モチベーションちよっとサガちゃったけど、やる、ちゃんと。ゲーム」

：7/左 耳打ち

【八千代】

yachi_81

「だってこれ、遊びくらべることに意味あるんでしょ？ 多分」

：7/左

【八千代】

yachi_82

「へへっ！？ 正解？なら、ラスト！ スーハミ……！」

:<https://www.youtube.com/watch?v=D2Hbe80bp48>

【八千代】

yachi_83

「スイッチオン……あ！」「超他
界村、ちようたかいむら
」……「これも知ってる！
なんかレトロゲームの番組で
みた！なんだっけ、あの赤い
悪魔——あ、そう！ デッド
アリーマ——！」

【八千代】

yachi_84

「まさか自分であの赤い悪魔と
戦う日が来るなんて……っ
て！？ ちよっ！ 地面動く
のこれっ——って、わ！？
ひ！？ 鎧ぬげたっ！ あ
うっ！？ ——」

【八千代】

yachi_85

「あ~~~~~」

【八千代】

yachi_86

「……うう。つらたん。いく
ら初見っていったって、まさ
か悪魔と戦うまえに負けちゃ
うだとか——あ」

：1/前（向き合っ）

【八千代】

yachi_87

「えと……うん。一通りプレイ
してみて？あ……音楽、え
と、一応、聞いてた。意識し
て。なんか、なんとなく、そ
ういう流れ？　って思ってた
から」

【八千代】

yachi_88

「えと——ハミコンは、もう、
なんか、映画とかにでてくる
みたいな、典型的なイメージ
の、『昔のテレビゲームの
音』って感じ。ピコピコして
て、シンプルで……結構新鮮
で新しく——って！」

【八千代】

yachi_89

「そうだよ！　キミが聞かせて
くれた曲！あれって、ハミコ
ンっぽかったんだね！！だか
らかな？　かわいいなー、っ
て思った。すごく」

【八千代】

yachi_90

「オメガドライブは……ハミコンとくらべると、随分普通の曲っぽい感じがした。普通の曲より、ちょっと……なんていうのかな、金属っぽいつていうか硬い？ 機械っぽいみたいな感じするけど、そこもなんだか面白いかもーつて、わたし的には」

【八千代】

yachi_91

「で、スーハミになると、もうほんと普通に音楽〜って思った。なんかもう、全部の音が本物っぽくて、楽器っぽくて——うん、自然に聞けるし、雰囲気あるって思った……かなあ」

【八千代】

yachi_92

「あ！？ なに、え？ 正解？ わたしが？なにが正解？？ あ……うん。あー、ゲーム機ごとの、音源——その特徴……」

【八千代】

yachi_93

「つて、えと——音源っていうのは——んと……ゲーム機の中の、音を再生する仕組み……みたいな感じに考えればいい？」

【八千代】

yachi_94

「あ……うん。スーハミは、その音源？ で？ 8チャンネル——あ、同時に8つの音を鳴らせるってことか——わ！ 結構それってすごくない？ えと……」

【八千代】

yachi_95

「だって、普通のバンドとかだと、ボーカルに、ギターに、ベースに、ドラムに、キーボード、とかでしょう？ たぶん」

【八千代】

yachi_96

「8だったら、それになんか、もっと豪華な音も足せるわけだし……うんうん、それは普通の音楽にもなるよねー」

【八千代】

yachi_97

「って、なんでニガワライして
るの？なんか、わたし間違っ
てる？？むー、『その説明は
細くなるから、興味があれば
また今度』って、そんなの
さ——っ!？」

：そっぽむいて独り言つぶやき

【八千代】

yachi_98

「え、それって——今度って—
—今度って、次の約束ってこ
とでしょう？ わ」

：1/前 マイクに向き直って

【八千代】

yachi_99

「あ！ うん。だよね！今は、
その、オーディションの、オ
リジナル曲の話してるんだ
し。えと——わかった」

：テレテレ

yachi_100

「……そこはまた、”今度”、
お話聞かせてね？」

：照れ隠し

【八千代】

yachi_101

「で！ お話は……んと——どの辺に戻る感じなの？あ、音源。うん。」

【八千代】

yachi_102

「ゲーム機によって音源の性能は全然違って——オメガドライブだと？ のチャンネル+3チャンネル+ノイズが1チャンネル——って、え！？じゃあ合計20！？ スーハミよりも2つも多い！！」

【八千代】

yachi_103

「けど——え？ あれ？？？なんでそれなのにスーハミの方が自然な音に聞こえるの？？」

【八千代】

yachi_104

「『どの辺が自然？』って——だって——ひとつひとつの音が、スーハミの方が……んと、本物の楽器っぽいうか」

【八千代】

yachi_105

「え！？ わ！　すごいのか？
わたしが？　なにが？？『
スーハミはサンプリング音
源』って——わ！　サンプリ
ングって、本物の楽器の音を
録音することなの！？」

【八千代】

yachi_106

「なーんだ、じゃあ、本物の音
楽にできて当然——じゃ、な
いの？うん……うん……え
え！？　5秒！？5秒って—
—スーハミの音源がサンプリ
ングに使える時間って、たっ
たの5秒なの！！？」

【八千代】

yachi_107

「だから、〇何秒単位の短いサ
ンプルング音源をいくつも組
み合わせて——それを合成し
て、長い音みたいに聞かせて
……それを重ね合わせて曲に
する」

【八千代】

yachi_108

「うっわ、聞いただけで面倒くさそう——それって、めっちゃくちゃ大変——だよね？わ……さつきキミはニガワライした理由、わかつちやった」

【八千代】

yachi_109

「それで『普通の音楽』やるのって、ちよっと想像つかないくらい大変だもんね、絶対。それをわたし、出来て当然みたいにいっちゃって……」

【八千代】

yachi_110

「っていうか、いまの話のながれだと、オメガドライブのは音源はスーハミとは別のってことになるよね」

【八千代】

yachi_111

「うん——うん。——えふえむ音源？その『≡音源』っていうのは、どんな音源？」

【八千代】

yachi_112

「あ、うん。音が波だっているのは、しってる。授業でわたし、習ってる」

【八千代】

yachi_113

「で？ ……ふんふん。音の波の形が、波形で——」
「音源っていうのは？ その波形を変調させることで、複雑な倍音を出すことができる……って——そこまでいくと、よくわかんない」

【八千代】

yachi_114

「ん……うん——うん——（呼吸音）——うん。要するに。『生楽器の音を再現するのは苦手だけど、独自の音を作るシンセサイザー——』」

【八千代】

yachi_115

「（考え込む呼吸音）……つて、んー……全然『要するに』になってないかなって思うけど……まあ、なんとなくわかったような気にはなつた。ほんと、びみょーになんとかなく、くらいは」

【八千代】

yachi_116

「あれ？ けどさ。っていうかそしたら——オメガドライブより古いハミコンって、その『独自の音を作る』ことが——ええええ！？ やっぱり！？ そうなの！？ できないの！！？」

【八千代】

yachi_117

「独自の音をつくれなのにな？ え？ でも、さっきのゲーム——スカイドッグって、ちゃんと音楽なってたよね？ え？」

【八千代】

yachi_118

「それじゃあアレって、いった
いどうやって作曲してるの
〜!?!?。」

：環境音 F.O.

：////////

：Track2.5 八千代のモノローグ

：////////

：「」は全て「前」をお願いします。

：編集で他のパートとは違うこと伝わると嬉しいです

・環境音：自宅のお風呂

：SE シャワーの音

yachi_119

「♪ （適当に鼻歌お願いしま
す）」

：SE シャワー止め

yachi_120

「ぶっっ」

yachi_121

「メロディー、メロディー。メ
ロディーかー」

：SE シャンプーのポンプ。すかつ

yachi_122

「あれ？ シャンプーきれて
る」

：SE ガサッ

【八千代】

yachi_123

「新しいの、新しいの……
よ、っと」

;SE:シャンプーのポンプ。ぬとゝ

【八千代】

yachi_124

「ん……」

;SE（環境音的に） シャンプーでしゃかしやか

;シャワーで流すまで、以下のセリフ群シャンプーの合間に、のニ
ュアンスをお願いします、

【八千代】

yachi_125

「……確かに説明——覚えきれ
ない感じだったけど、頭ぱん
ばんでパンクしちやいそう
だったけど……それでも、そ
れでも……」

yachi_126

「……」

【八千代】

yachi_127

「……それでも。なんか、うま
くはぐらかされちゃった感じ
かなー」

【八千代】

yachi_128

「『センスがいいのはよくわ
かった』って」

【八千代】

yachi_129

「センスがいいって褒められたのは、えへへっ、もちろん嬉しいけど、でも——」

【八千代】

yachi_130

「センスって、何のセンスなんだろ？ゲームやって、音楽の感想いっただけで……センスなんて、そんなのわかるわけないよねー、たぶん」

【八千代】

yachi_131

「なのに——『曲提供をするかどうか、あとは本気度をためさせてほしい』って」

【八千代】

yachi_132

「……だからメロディーを作ってきてほしいとか、素人のわたしにいきなりなんて……メロディーなんて、わたし、つくったことないのに」

【八千代】

yachi_133

「鼻歌をスマホで録音するだけでかまわない……ってでもいいってくれたけど——。鼻歌だったら、いつもてきとーに歌ってるけど。だけどそんな、いい鼻歌がタイミングよく出てくるってものでもないし——あ！」

;SE シャワー流す

【八千代】

yachi_134

「ん——」

;SE シャワー止める。お風呂場で歩く、ぺたぺた

【八千代】

yachi_135

「おかーさん！ あのさー！こないだほめてくれたでしょ？ わたしの鼻歌、『あら、いい曲ね』って」

【八千代】

yachi_136

「あれさー、ちょっとでも覚えてたりとかしないかな？わたし、メロディー！ 作るのチャレンジしてみたいんだー」

;SE 環境音 F.0

:/:/:/:/:/

;Track3 作曲 step by step-

【八千代】

：////////////////

：SE クリックでカウント カッ、カッ、カッ、カッ

：ボーカルマイクでREC ステレオで聞かせて

yachi_137

「♪（曲のサビの部分だけ、
鼻歌アカペラでご歌唱くださ
い）」

：10/右前遠

yachi_138

「え？ あ、オッケー？ オッ
ケー、オッケー……」

yachi_139

「……………ぶはあっ！
き、き、緊張した〜！！！」

：環境音 自宅スタジオ

yachi_140

「ど、どうだった、わたし――
わたし、ちゃんと歌えてた？
声とか、ふるえたりしてな
かった？？」

yachi_141

「って、そりやそうだけど！キ
ミひとりの前でうたうので緊
張してたら、プロの歌手にな
んてなれっこないけど！！」

【八千代】

yachi_142

「でも、鼻歌！ メロディー！
言われたとおり、スマホに
録音したの聞いてもらおうっ
て思ってたのに」

【八千代】

yachi_143

「なのにいきなり！ こーんな
立派なマイクの前に立たせ
て、『歌って』なんて！ い
や、『安物』とかそういう話
じゃなくって！ その、いき
なりレコーディング？ とか
いわれたことがもう！！」

【八千代】

yachi_144

「おっかないし、意味わかんないし、緊張しないわけがない
——へ？」

【八千代】

yachi_145

「……（呼吸音）——意味、わかるの？ キミの座ってる席に
すわれば？ っていうか、あ——
交代するのね？ 場所」

【八千代】

yachi_146

「それもまた意味分かんないけど、えへへ、なんか楽しそ！ わかった、それじゃあ、タツチ交代！！」

移動 室内足音 二〇／右前遠 ↓ 二一／後左遠

”二〇〇左前遠↓ お椅子くるーん”以降二〇〇右前遠

【八千代】

yachi_147

「えへへ、キミの席と——っぴ！
お椅子くる——ん！！で？
次はどうすればいいの？あ——
——ヘッドホンつけるの？こ
れね？で？わ！？？」

【八千代】

yachi_148

「あーあーあー！！すごい、すごいね、全然違う！！！！キミの声——キミがマイクに向かってしゃべった声！ヘッドホンつけたら——わ！えへへ」

【八千代】

yachi_149

「ヘッドホンはずから、それでしゃべってみて？んしょーわ。うん、ちがう、全然」

【八千代】

yachi_150

「ヘッドホンつけてマイクに向けた声聞いと、ものつすぐくキミの声がクリアに——あ！ わかった！！」

【八千代】

yachi_151

「わたしの鼻歌。クリアにくつきり聞してくれるため——それでわたしに、マイクに向かって歌わせたんだ？」

【八千代】

yachi_152

「あー。そっかー、そうだったんだねー！ 納得した！ うん」

【八千代】

yachi_153

「けど……えへへ、ちよっぴりそれはそれで恥ずかしいかな。わたしの鼻歌のメロデイーなんか、クリアに聞いてもらっても——！！？ 意味あったの？ 十分？ え？ なんだ？ どうして？」

【八千代】

yachi_154

「あ、こっちくるの？ わたし
戻る？ 戻らなくていいの？
お隣？」

：SE 椅子をもってくる

：1/前 ↓「うっ」で：3/右で顔ダミーヘッドと同じ向き

【八千代】

yachi_155

「えへへ、わーい！ お隣さん
だねー」

：3/右 接近囁き 「んふふ」は離れながら

【八千代】

yachi_156

「いらっしゃーい——んふ
ふっ」

1/前

【八千代】

yachi_157

「え？ あ、はい。顔のむき—
—画面の方むく——こう？」

：3/右 ダミーヘッドと同じ向き

：「んぎんぎん」ダミーヘッドの方向いて話してあげて下さい

【八千代】

yachi_158

「で？ へ、SE 音源再生のためのク
リック音などへわー！」

＜音源再生：ステレオ、シンセ音でメロのサビのとこ＞

【八千代】

yachi_159

「え？ これ——メロディー—
鼻歌！？ わたしの！？
だよね！ わたしの！—！」

1/
前

【八千代】

yachi_160

「え！？　いつ、どうして！？
　　どうやって！？なんでわた
　　しの鼻歌が、楽器の音になっ
　　てるの？？」

【八千代】

yachi_161

「『耳コピー？』　耳で聞いた音
　　を、そのままコピー。パソコ
　　ン上の楽譜になおして、それ
　　を鳴らしてる……」

【八千代】

yachi_162

「（考え込む呼吸音）――
　　っ！！！！」

【八千代】

yachi_163

「つまりそれって！　わたしの
　　鼻歌、ヘッドホンでききな
　　ら、ほとんど同時にこれつく
　　ちやったってことでしょ！？
　　すごいすごい！　　キミ
　　天才じゃん！！！」

【八千代】

yachi_164

「『作曲してる人間だったら誰でもできる』——って！ならそれは、作曲してる人みんな天才ってことだよ！わたししてきには！！！」

【八千代】

yachi_165

「でも、そっかー。えへへへ……わたしの鼻歌が、楽器で鳴らしたただけであんなに音楽っぽくなるんだねー。なんか、すごいね！作曲って！！！」

【八千代】

yachi_166

「ほえ？『メロディーをつくただけじゃ作曲じゃない』って——ええと、だって？曲って——歌って、メロディーのことじゃないの？」

↑/前↓「はあー」で：3/右、ダメーヘッドと同じ視線

yachi_167

「あ、うん。わかった。またあっちむくのね？はあい！」

：SE キーボード、マウス等の操作音

【八千代】

yachi_168

「あ、そか。こっちむくのつて、スピーカーの関係なんだ、たぶん。あっちとこっちにあるやつ」

【八千代】

yachi_169

「ここがちょうど真ん中だから、まっすぐ前むいてると、一番いい感じに音が聞こえるんでしょ？ でしょ？ わ！」

〈音源再生…リズムセット+メロディー〉

yachi_170

「……………（感動+驚きで息

吸う）」

1/前

yachi_171

「えっ！？ いまの、いまのわたしの鼻歌だよね？ さっきとおんなじメロディーだよね？ なのに——なのに全然違った！」

【八千代】

yachi_172

「すごく生き生きしてたっていうか……弾んでみたいで、メロディーに、元気に走れる足とかついたみたいなのがした」

【八千代】

yachi_173

「違い？ わかる！ ドラムとかでしょ？それが増えて——増えたらもう！なんかメロディーだけだったときと、全然違って——」

【八千代】

yachi_174

「（呼吸音）（呼吸音）——リズム。いまのは、メロディーにリズムがプラスされた状態」

【八千代】

yachi_175

「うん！ わかった。感じた。リズムがはいって、メロディーだけだったときより、ずっともっと曲っぽく——つて！あ！ だから？ だから、『メロディーだけだと曲じゃない』の？」

【八千代】

yachi_176

「あはっ！ やっぱりそうなんだねー。今日は、メロディーとリズムがあって——え？あともう一つ大事な要素があるの？」

：1/前↓、準備オツケー”で：3/右

【八千代】

yachi_177

「それってなに？ あ。うん。わかった——準備オツケー、いつでもどうぞ？」

<音源再生：コード+リズムセット+メロディー>

【八千代】

yachi_178

「（感動の呼吸）——わわ、わわっ、わああっ！！！！」

1/前

【八千代】

yachi_179

「すごいすごいすごい！！え！？ いまの曲だよね？ もう完全に曲だよね！？」

【八千代】

yachi_180

「なんか、増えてた！　じゃーんっていうの！！そしたらなんか、なんだろ——なんていうの？」

【八千代】

yachi_181

「音が……曲が——ふくらんだみたいな気がした。ふわってしたり、しゅってしたり——あ、表情！うん。表情がついた気がした！！！」

【八千代】

yachi_182

「これって——『コード』？　あ！　聞いたことある！　バンドしてるのが、『Fのコードが抑えられない』っていつてるアレ！」

【八千代】

yachi_183

「ならなら、曲って、『メロディーとリズムとコード』なの？」

【八千代】

yachi_184

「あ……（呼吸音）——うん。
厳密には、コードじゃなくて
ハーモニー？　なんだ。ふた
つ以上の音が同時になってる
のがハーモニーで。ハーモ
ニーの中の、特定の組み合わ
せに名前をつけたものがコー
ド、なんだ。ふうん」

【八千代】

yachi_185

「それが、作曲の三要素——メ
ロディーとリズムとハーモ
ニーを揃えて、はじめて、作
曲」

【八千代】

yachi_186

「そうなんだねー！　すごい！
めちやくちや勉強になっ
た！！だから作曲はメロデ
ィーだけじゃダメ——って、
え！？　ちよっと待っ
て！！？」

【八千代】

yachi_187

「なら、今のでもう出来てるんじゃないの？ 曲。オリジナル曲！だってメロディーもリズムもハーモニーも……あ！」

【八千代】

yachi_188

「……（呼吸音）——だね。そっか。確かに。『最低限』なんだ、これだと。……（呼吸音）——格ゲーで、基本コマンドをひとといり覚えたくらいじゃ、そのキャラ使えてるっていけない……うん」

【八千代】

yachi_189

「……ありがと。そっか。そのたとえだとわかりやすいや。オーデションって、格ゲーだったら全国大会みたいなものなんだもんね、きつと」

【八千代】

yachi_190

「基本コマンドようやく覚えたくらいだったら、予選通過だってできない………あ」

【八千代】

yachi_191

「じゃあさ、それならさ、もしかしたらさ、オーディションにあった、チラシにあったへっぺ紙ぺら。この『ジャンルが明確なオリジナル曲』のジャンルって！！」

【八千代】

yachi_192

「格ゲーでいったら、どのキャラ使って戦うかみたいなものなの？ そうなの？ やったー！！！！」

【八千代】

yachi_193

「で？ うん——。今みたいなスタンダードな、いわばポツプスアレンジはキミのジャンルじゃないの？ そか、そなんだ。今のみたいなのは、スパゼロでいったら、ケンリユウみたいなキャラなんだね、たぶん」

【八千代】

yachi_194

「万能型で、誰にでも扱いやすいけど、その分めちやくちや奥深い、みたいな」

【八千代】

yachi_195

「それじゃあ、それじゃあ、キミのキャラ——キミの得意なジャンルの名前は、なんてゆーの！？」

：環境音 F.O.

：////////

：Track4 チップチューン……

：////////

：参） <https://pudding.cool/2018/02/waveforms/>

：SE 矩形派の音

：3/右

【八千代】

yachi_196

「……ええと、この音が、クケイハの音？クケイっていうのは、四角形のこと、波形が四角形をしてる音だから、クケイハ」

【八千代】

yachi_197

「オッケー、わかった。こゝまで覚えた。多分」

yachi_198

「そしたら次は？ あ、マウスでこのスライダーを動かすの？ 好きな方にでいいの？ そしたら——右に！」

：SE 矩形派の音大きくなる

【八千代】

yachi_199

「わ！？ ボリュームあがった！！あ、うん。画面にでてるクケイハの形もおつきくなった。うん……うん——
(呼吸音)——」

【八千代】

yachi_200

「振幅……波の縦幅が大きくなると、同じ波形の音でも音が大きくなる——。うん。オツケー、ここもわかった気がする」

【八千代】

yachi_201

「そうしたら、今度はこっちのスライダー？んじゃあ今度は——左にぐい——」

:SE 矩形派の音低くなる

yachi_202

「わ！？ 今度は波形が——矩形はの横幅がひろ——くなくて、音がものすごく低くなっ
た」

【八千代】

yachi_203

「って、いうことは、これ、スライダーを右にしたら——え
いっ！」

:SE 矩形派の音高くなる

【八千代】

yachi_204

「やっぱり！ あはは、おもしろーい！！横幅がせまくなつて、音高くなつた！！！」

:SE ストップ

【八千代】

yachi_205

「いまのって、なに？うん——
横幅が周波数。一秒間に、矩形波が繰り返されるか——
あ！」

1/前

【八千代】

yachi_206

「ながーいのは遅いってことなのか。波が遅いから音が低くて、短いのは波が早いから高くなる」

【八千代】

yachi_207

「正解？ えへへ！ やつた——！！！！」

【八千代】

yachi_208

「ほへ？ 『これがこないだの質問の答え』？……こないだの質問って……あ！ わかった！ 思い出した！ ハミコンの音源の話だ！」

【八千代】

yachi_209

「『ハミコンは独自の音をつくれない』けど、『ちゃんと曲を演奏できる』のは——ひとつの波形——種類の音でも、高さとか大きさとか、ひとつひとつの音の長さも速さも変えられるから」

【八千代】

yachi_210

「それなら、ちゃんとメロデューを……って——」

【八千代】

yachi_211

「えとえと、先生！ 質問です！ さっき、曲はリズムとメロディーとハーモニーって、いつてたでしょ？」

【八千代】

yachi_212

「それを、たった一種類の音だけ
けでって、めちやくちゃ無理
ゲー——あ！？ 一種類の音
だけじゃないの？なんだー、
そーだよねー、そりやそう
だー」

【八千代】

yachi_213

「ふむふむ。ハミコン音源が扱
えるのは、さっきと同じ、四
角い波形の矩形波が2チャ
ネルと——」

【八千代】

yachi_214

「波形が三角をしてる三角波が
1チャンネルと——」

【八千代】

yachi_215

「あとはノイズ音源——音程を
まったく持たない音源？
あ、テレビの砂嵐のざーって
いうのみたいなの？」

【八千代】

yachi_216

「ふんふん。そのノイズ音源が
1チャンネルの、合計4チャ
ネル——って、えー
————っ！！？」

【八千代】

yachi_217

「たったの4なの！？ しかも
一つはノイズって——（呼吸
音）——！！！！？」

【八千代】

yachi_218

「確かに！！！ゲームなら効果
音でも1チャンネル使うから
——効果音なってるときは、
3チャンネルしか使えないん
だ！ハミコン音源！！！」

【八千代】

yachi_219

「それで——あの！ もっか
い！ もっかいちよつとだけ
遊んでみていい？ 『スカイ
ドッグ』」

↑前↓：3/右↑：1/右遠

【八千代】

yachi_220

「ありがと——！！」

：SE 電源ボタン音。スタートボタン連打

：SE スカイドッグBGM（台詞に合わせてF.O）

：11/右遠

【八千代】

yachi_221

「すごい……そんな無理ゲー状
態で、こんなにピコピコ、か
わいかっこいい曲になってる
なんて——え？」

【八千代】

∴足音 ∴二／右遠↓∴三／右↓一／前
一／前

yachi_222

「これが？——キミのジャンル？って——あ！！！！」

【八千代】

yachi_223

「打ち上げのとき聞かせてもらったあの曲！そっか、あのピコピコでキラキラでかわいいのって、もしかして、ハミコン音源で作曲してたの！？」

∴↓驚きから、段々真剣に

yachi_224

「（呼吸音）（呼吸音）（呼吸音）」

yachi_225

「……チップ、チューン」

yachi_226

「チップチューン。それが、キミのジャンルの名前」

yachi_227

「ハミコンの音を主体に作曲するのが、キミのチップチューンなんだ」

【八千代】

yachi_228

「おしえてくれてありがとう！
なら、さっきのメロディーを
キミのチップチューンに仕上
げて——え！？ 『自信がな
い』って、なんで！？ どう
して！！？」

【八千代】

yachi_229

「チップチューンは制約だらけ
で、自由じゃないから？ キミ
の曲の、チップチューンアレ
ンジのせいでわたしがオーデ
イションおちちゃったら、っ
て——」

1/前 接近（つめより）

yachi_230

「え！？ そんなのだって、キ
ミに頼んだわたしの責任で
しょ？ 誰がどう考えたっ
て」

【八千代】

yachi_231

「制約があっても！ 自由じゃなくても！それが逆にきつと、あのキラキラを生み出してるんだって、わたし、思うし」

【八千代】

yachi_232

「それよりなにより、そもそもオーディション受けるのはわたし——あ」

1/前 (ふらって感じで距離をとる)

【八千代】

yachi_233

「違う……よね、それ。よく考えたら——ううん、よく考えなくってもわかる」

【八千代】

yachi_234

「違うよ。うん。わたし、一人でオーディション受けるんじゃない。キミの曲を、もしも歌わせてもらえるんなら」

【八千代】

yachi_235

「（呼吸音）……………だよね。
わたしもそう思う。キミの曲
でオーディション受けるのっ
て、キミと一緒にオーディシ
ョンを受けるのと、完全に同
じ。歌わせてもらうって……
そういうこと」

∴頭抱えてうつむいて

【八千代】

yachi_236

「あああ……わたし、めっちゃ
簡単に考えてて——オリジナ
ル曲、あまってるのあったら
歌わせてもらいたいくらいの
気持ちに考えてて——」

yachi_237

「（呼吸音）（呼吸音）（呼吸
音）」

∴顔上げて

【八千代】

yachi_238

「あの——そのことはほんと、
ごめんなさい。わたし、歌わ
せてもらうってことも、オー
ディションを受けるってこと
も意味も、めっちゃくちゃ——
ものすごく軽く考えちゃって
た」

【八千代】

yachi_239

「ううん。今も——今も本当に
は、その怖さも、大事さも、
ほとんどわかってないのかも
だけど——」

二／前 一歩近づいて密着距離

【八千代】

yachi_240

「だけど！ それでも——わか
らないなりに考えて、それで
も、わたし——」

一／前 密着距離、囁き

【八千代】

yachi_241

「……それでも。キミにお願い
したいの。ううん、あらため
てお願いします」

二／前

【八千代】

yachi_242

「（息を吸う）。――。わたしと一緒に、キミのチップチューンで。オーディション――スオーディションを受けてください」

【八千代】

yachi_243

「理由は、だって――あのに、打ち上げのときに聞かせてもらった曲のキラキラ、わたしの耳に、いまでも鮮やかに残ってるから」

【八千代】

yachi_244

「音源のこと、曲のこと、教えてもらって。キミがどんなに音楽を、チップチューンを大事にしてるか、大好きか、わかったような気がしたから」

【八千代】

yachi_245

「わたしの鼻歌のメロディーを、あつという間に曲にしてもらったの感動したし――感動して、それで――だから」

【八千代】

yachi_246

「あのメロディーが、本物のキミの曲に。チップチューンの曲になったの、聞いてみた
いって、わたし、思うし」

【八千代】

yachi_247

「その何倍も何百倍も！ わたしが歌ってみたいって——ほんとに、ほんとに思うから——！」

【八千代】

yachi_248

「って、……あ、えーと………」

：我に返ったように一歩→一歩下がる

：9/前遠

【八千代】

yachi_249

「って、これ、わたしの都合ばかりだね。キミのメリツト……なんにもないよね。……けど——けど——それでも、わたし……」

【八千代】

yachi_250

「……………」

【八千代】

yachi_251

「（ためらって、いいだせない）……。っ！あの、ね？ あの……。音楽とは、全然違うかもしれなくて、だからすごく、バカな、見当はずれのこといっちゃってたら——ごめんなさいって思うけど」

【八千代】

yachi_252

「けど——それでも。伝わってほしいなって思うから。イヤだったらやめるから……。イヤになるまでは、聞いてもらえたらうれしい——です」

【八千代】

yachi_253

「ええと、わたし。ほら、ゲージだけはうまいでしょ？でも、ゆってもまだ高1だし……全一（ゼンイチ）とかはとも狙えるレベルじゃなくて——けどそれでも、結構ゲネでだと、あのゲーセンでだと、勝率高い方でしょ？ 今は」

【八千代】

yachi_254

「でも、中学生のとき。はじめて本物のゲーセンって、はじめて対戦台に座ったときは——一本目、完封されちゃって」

【八千代】

yachi_255

「二本目は、めちやくちや慌てたのになんだか勝てちゃって。それで三本目ギリギリで負けて——わたし、思ったの。『あ、いま接待プレイされたんだ』って」

【八千代】

yachi_256

「おうちでは、プゲステ4版では、トロフィーもちろんプラチナだし、オンラインの対戦でも結構イケてたから……ウソって感じで、ちよっと、呆然としちゃって」

【八千代】

yachi_257

「立てないでいたら、対戦台の向こうにいた人がニヤニヤしながら、『惜しかったねー、いい勝負』とかいってきて——」

【八千代】

yachi_258

「そのニヤニヤを見た瞬間、背筋、ものすごくゾワってして。吐き気がして震えちゃって……」

【八千代】

yachi_259

「悔しいのと、情けないのと、ショックだったのと、怖かいのと——多分、他にもいろいろ、いろいろ、全部うわって押し寄せてきて——他になんにもできなくて——わたし、逃げたの」

【八千代】

yachi_260

「逃げちゃったらもう、全然ダメで。あんなに楽しかったスパゼロが、一ミクロンも楽しなくて」

【八千代】

yachi_261

「……おかあさんにも、『女の子がそんな野蛮なゲームなんて』って前から毎日言われてたし……ああ、もういいのかなあ、みたいに、思っ

【八千代】

yachi_262

「……部活、はあったの。パソコン部。パソコンのゲームとか面白いかなって。実際、楽しかったんだけど……楽しければ楽しいほど、『スパゼロの方が面白い』って、それでもね？ わたし、思っちゃって」

【八千代】

yachi_263

「けどおうちに帰って遊ぶとつまなくなって。それでわたし——ゲーセンでスパゼロやって勝たないと、きつとスパゼロをまた楽しく遊べないって、思っ

【八千代】

yachi_264

「ゲーセンで勝っても楽しくなかったら、それはもう辞め時なんだから——どっちにしても、絶対一勝だけはしようつて。100円だけ、ワンコインだけ。握りしめて家を出て」

【八千代】

yachi_265

「おうちの近くのあのゲーセンは……怖くて、どうしても入れなかったから。そういうば踏切の向こうにもゲーセンあったよねって思ってた」

【ハチロク】「それではじめて、ゲネに入ったの。」

看板見て、“ゲネラールプローベ”って意味分かんない名前だなあって思ってた。

それで少しだけリラックスできて、入れたの」

yachi_266

「ぐだぐだ考えてたらまた逃げちやいそうに思ったから、対戦台、人がいるやつの向かいに座って100円いれて——プレイして。——そしたら——ふふっ！ やっぱり負けたの、ボコボコに」

【八千代】

yachi_267

「一本目完封されて。二本目も全然歯が立たなくて——でもね？ そのとき、そのとき体、勝手に動いたの」

【八千代】

yachi_268

「完全に舐められてるから、絶対「超必殺技、ちようひつ」で終わらせにくるって、考えるよりも早く多分、体の方が動いてくれて」

【八千代】

yachi_269

「超必だけは出かかり潰して。そのあと二択間違えて、コンボでやられちゃったけど——」

【八千代】

yachi_270

「負けて——ボロボロに雑魚く負けて。なんにもできなかったーって思って。悔しくて。ほんと、ふつ——にムカついて」

【八千代】

yachi_271

「それがわたし！ 楽しかったの！！スパゼロ、ひさびさにプレイしたー！ って！ 楽しいなあって！ 思ったの！」

【八千代】

yachi_272

「そこかは……キミも、なんとなくくらい知ってくれてる？ 月水金の四時から五時までと、お小遣い残ってるお小遣いまえのお休みの日は、お店通って、わたし、スパゼロ、やれるだけやりこんで」

【八千代】

yachi_273

「お店ではかなり強い方になれて。大会、地区予選ならちよつとは勝てるようになってきて——って」

【八千代】

yachi_274

「だから、わたし——なんだか思うの。ぜんぜん違うのかもしれないけど——それでもわたしは、思ってるから聞いてほしいの」

【八千代】

yachi_275

「オーディションって、わたしが100円だけ握りしめて。はじめで踏切渡ってお店にいった——あの日の対戦台とおんなじなんじゃないかって」

【八千代】

yachi_276

「対戦台に座って、さ。100円入れて。あの日のわたしがボッコボッコに負けたけど。一発だけは返せたけど」

【八千代】

yachi_277

「例えば、なんかのまぐれで勝ってても。ただの一発も返せなくって、連続完封で負けてても」

【八千代】

yachi_278

「それでもわたし——どんな結果だったとしても、スパゼ口、また楽しめるよーになったんだって思うの。きっと。けど、ね？ だけど……」

【八千代】

yachi_279

「もしもあのとき、100円いれな
いで帰ってたら——多分……
わたし——あれ！？ あ
れ！？ これってやっぱり、
全然違う??」

【八千代】

yachi_280

「だって、オーディションうけ
なくっても、別にキミ、チッ
プチューン嫌いになるわけな
いし、やめないだろうし——
あ」

「前（密着／手をにぎられてる距離）」

yachi_281

「あ、あ、あのっ、えと——」

【八千代】

yachi_282

「あ——あ——あっ！！——う
ん、伝わったんなら、すごく
嬉しい！！わたし自分で、な
にいたかったのか、はっき
り言葉にできてないけど、そ
れでもなにか、伝わったな
ら、すごく嬉しい！！」

【八千代】

yachi_283

「ええと、それじゃあ——（呼吸音）あらためて、もう一回、お願いします」

【八千代】

yachi_284

「わたしに曲を、作ってください。キミのキラキラのチップチューンを、わたしに歌わせてください」

【八千代】

yachi_285

「そうしてどうか、わたしと一緒に——メロディションを、受けてくださ——って——え？ えええ？！ 契約金！……？」

【八千代】

yachi_286

「わたし、高校生なのに——っていうか、今の話の流れで契約金って——あっ……！」

【八千代】

yachi_287

「あははっ！ オツケー……！ わかった！ それね！ なるほどね——！ もちろんするする！ 契約します！」

【八千代】

yachi_288

「じゃじゃーん、100円！わたしからキミに！ インサートコイン！！！」

【八千代】

yachi_289

「えへへ、これで契約成立！キミとふたりで——プレイ——スタート！！！」

：環境音 F.O.

：////////

：Track5 レコーディング……！

：////////

：10/右前遠

yachi_290

「（深呼吸）」

：環境音 自宅スタジオ F.I.

yachi_291

「……大丈夫。と、思う。さすがにちよつとは緊張してるけど——でも大丈夫」

yachi_292

「わたしはいつでもいけるから。キミのいいタイミングで——お願い。はじめて？」

：環境音 F.O.

＜演奏。パート。クリックから入って、ステレオで完成楽曲を1コーラスかフルコーラスか聴かせてください＞

【八千代】

:/:/:/:/:/
:Track6 エピソードはコンティニュー！
:/:/:/:/:/
:SE メール送信音
1/前

yachi_293
「あ！！！！」

【八千代】

yachi_294
「今、終わったんだよね？

メール送信。っていうことは
……あはははっ！ 応募完了
だね！ オーディション！す
ごい！ やったー！！！ 感
動だー！！！！！」

【八千代】

yachi_295
「ありがとね！ほんとありが
と！全部キミのおかげ！！！
オーディションの結果はどう
なるかわかんないけど、もし
もダメでも、ダメだとして
も」

【八千代】

yachi_296
「わたし、キミに教えてもらっ
た。曲ってなにか、音ってな
にか。音楽って、歌って、ど
んなに素敵で楽しいか」

【八千代】

yachi_297

「『歌手になれたら楽でき
そー』って、アホアホなこと
考えたけど——えへへ、そん
なこと、あるわけないって、
教えてもらった」

【八千代】

yachi_298

「ス。バルタだったもんね！
ボーカル練習！！音がちよっ
とでもずれてると、『作曲し
ないでもらえますかー』っ
て、嫌味っぽくさー」

【八千代】

yachi_299

「歌詞も……あはは、あんなに
大変と思わなかった。たたた
たーで伸ばしたいのに、たた
たたたの五音だからとか
さー、伸ばした方が綺麗に響
くし歌いやすいのに！」

【八千代】

yachi_300

「でも……うん。すごく楽し
かった。教えてもらったこと
も、生意気いって——いわせ
てもらえてぶつかったこと
も」

【八千代】

yachi_301

「ぶつかってそうして、ふたり
で一緒に答えをみつけた瞬間
とかって、ほんと、サイコー
だな！ って思った。ひとり
でうたってるときよりも、大
会で勝てたときよりも、もっ
とずうっと、サイコーになっ
て」

【八千代】

yachi_302

「だから……あはは——ナイシ
ヨにしとくつもりだったんだ
けど」

：3/右 接近囁き

yachi_303

「オーデিশョン。応募おわっ
ちゃったのちよっとさみし
い。ちよっとっていうか——
結構、すごく」

1/前 戸惑って、ためらって、照れて、決意

yachi_304

「……（呼吸音）（呼吸音）
（呼吸音）（呼吸音）」

【八千代】

yachi_305

「だから、あの、さ。わたし、寂しいのイヤだから——あ、違う。イヤだからとか、そういうんじゃないくって、えと！」

【八千代】

yachi_306

「わたし、さ——好きに、好きになっちゃったみたいなの。キミと一緒に曲つくって、うたって、休憩だっって、ゲームして、りんごジュース飲ませてもらって……そういう時間が。この部屋が」

【八千代】

yachi_307

「それで——だから……多分、だけど……」

【八千代】

yachi_308

「恋とか、わたし、したことなくて——だからなにか違うのかもだけど、勘違い、してるかもなんだけど……」

【八千代】

yachi_309

「それでも、ね？ 今の、わたし
してときには——わたしは、多
分、たぶんだけど、キミのこ
とが——あっ！！！」

：SE 抱きしめられる （不自然なら不要）

：S/右 接近囁き

【八千代】

yachi_310

「えへへ——うれしい。キミも
わたしと、おんなじ気持ちで
いてくれるんだ」

【八千代】

yachi_311

「……うれしいから、ね？ い
わせて、ちゃんと。わたしに
も」

【八千代】

yachi_312

「（息を吸う）——わたしは、
キミが大好きで。キミに恋を
——はじめての恋を、してい
ます」

【八千代】

yachi_313

「だからわたしと付き合って——
——わたしの恋人に、なってく
ださい！！——ふわっ！？」

一／前

【八千代】

yachi_314

「ちよっと！ 早い！ 順番ちがう！！！！キス、とかは——ちゃんと告白オツケーしてもらって、デートして、それで、三回目くらいのデートになっってからだと思う。わたしときには」

【八千代】

yachi_315

「だから、今は——お返事！わたしの告白のお返事……聞かせてくれたら、うれしいな」

【八千代】

yachi_316

「……（呼吸音）——（呼吸音）——えへっ！ えへへへっ！ えへへへっ！ あっ！」

；SE 足音 1/前→；10/右前遠

【八千代】

yachi_317

「うかんできた！ メロデイー、鼻歌！！！！ね、とつて！ 録音して！！恋人同士になっではじめてのメロデイーを！」

・ボーカルマイクにRec. ステレオで聞かせる

【八千代】

yachi_318

「オツケー？ それじゃあ、
たうから！！（息を吸う）」

< 楽曲再生…イントロからフルコーラス >
…おしまい
